

4. 用水路はどんなところを通っているの？ ② 丘にはりついて



丘の手前に小段の丘がある(矢印)。登ると水路がある(右下写真)。

(1) 丘の小段の上を流れる

地図にはあるのに、ながめてみても水路が見あたらない。でも丘をよく見ると、くつつくように小さな丘(小段)が続いています。

道を見つけて少し登ってみると、水路がありました。なぜ、わざわざ少し高いところに水路を通していただろうか。



小麦畑(むかしの水田)

ここでも少し高いところを進む水路。おくの小麦畑は、むかし水田だった。



小段(左上写真)の上にある水路。ほぼ平らに水路が続いている。

川で行われた大きな工事

川につながる
ふだんの暮らし

川につながる農業

川につながる漁業や工業

少し高いところにも水を送るために

水は高いところから低いところへ流れます。

では、低いところに水田をつくれればいいのかというと、低ければ水が多すぎたり洪水のときに水をかぶりやすかったりと、よくない面もあります。

できれば、洪水の来ないところで、しかし使う分の水はたくさんあるところがいい。

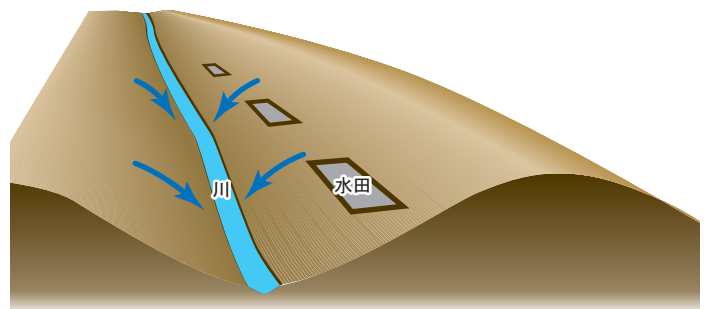
そこで、

- 川の上流から水を引く。
- 高さをあまり落とさないように、水路を造る。
- 別の水路がある時は、橋をかけて通す。
- 岸を固めて、低い方に流れ出さないようにする。

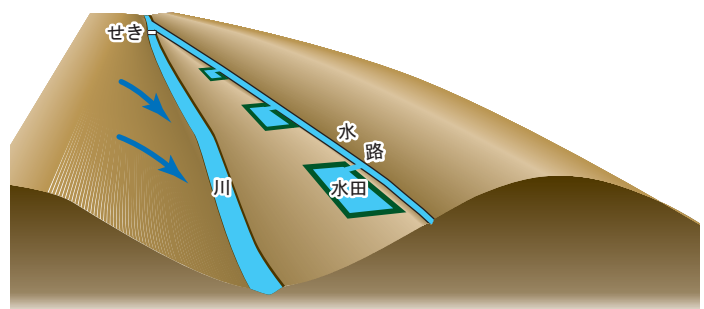
といった工夫をして、少し高いところにある水田へも水を引けるようになってきました。

こうした工夫は、水をたくさん水田へ引くためにも役立ちます。

そのほか、稲が育つためにはあまり冷たい水では良くありません。水路の水を日に当てることで、水温を多少上げることができます。



水は低いところに流れ、少し高いところの水は少ない。



上流から高さを保つように水路を造ると、少し高いところにも水が来る。

付録